



なぜ、お寺で演劇をしているのか



第68回寺子屋トーク「それでも母が大好きです」
細川昭々と語る「バムスメ」を、1月22日(日)に
本堂ホールで行いました。漫画家の細川昭々さん
をお招きし、「母の支配」とどう向き合うかを語
りました。今回、前半のトークでは「＜その時＞が来たら、苦
しみや自分の身体から離れてやる作業ができるよ
うになる」という昭々さんの言葉に一同が頷きました。



- 「氣づき字び遊びの実践」
今年度も、アートと社会活動のための総合芸術文化祭「COMET」フェスティバル2017を開催。トウキイベント、ワークショップ、演劇、映画上映会など、多彩な取組みが連日行われました。本事業は1998年頃からアートの傾向が強く、今年や当会を代表する文化事業のひとつとして定着しています。「共有の財産（common）」という名が持つす通り、それぞれ人が持っている経験や知恵を分かち合うため、事務局より導かれて委員合形式へのお帰りの図つて5年目を迎えるお祭りの実施となりました。
- ちの統一テーマは「へんのちのエンデュードと生と死をめぐめる15の舞台」として、仏教、特に浄土宗のおし

12月24日に、劇作家の岸井大輔さんより観光家の陸奥賢さんによる恒例の24時間トーク「如是我聞」で幕開け、年が明けてからは陸奥さんによる3つの企画を開催、自作の戯曲と重ね合わせたまま歩き、演劇フライヤーとの出会い直し「鯨について語

今回の特徴として、当会に
おける他事業との緊密な絡
み合いも印象的でした。約2
年半ぶりの開催となった「吾
子屋トーク」は、第68回以
下、ゲストとともに母
娘の関係性「仏教との新し

今
回
の
特
徴
と
し
て
、
当
会
に
お
け
る
他
事
業
と
の
緊
密
な
絡
み
合
い
も
印
象
的
で
し
た
。約
2
年
半
ぶ
り
の
開
催
と
な
っ
た
「
吾
子
屋
ト
ー
ク
」
は
、
第
6
8
回
以
下
、
ゲ
ス
ト
と
と
も
に
母
娘
の
関
係
性
「
仏
教
と
の
新
し
く

今
回
の
特
徴
と
し
て
、
当
会
に
お
け
る
他
事
業
と
の
緊
密
な
絡
み
合
い
も
印
象
的
で
し
た
。約
2
年
半
ぶ
り
の
開
催
と
な
っ
た
「
吾
子
屋
ト
ー
ク
」
は
、
第
6
8
回
以
下
、
ゲ
ス
ト
と
と
も
に
母
娘
の
関
係
性
「
仏
教
と
の
新
し
く

今
回
の
特
徴
と
し
て
、
当
会
に
お
け
る
他
事
業
と
の
緊
密
な
絡
み
合
い
も
印
象
的
で
し
た
。約
2
年
半
ぶ
り
の
開
催
と
な
っ
た
「
吾
子
屋
ト
ー
ク
」
は
、
第
6
8
回
以
下
、
ゲ
ス
ト
と
と
も
に
母
娘
の
関
係
性
「
仏
教
と
の
新
し
く

今
回
の
特
徴
と
し
て
、
当
会
に
お
け
る
他
事
業
と
の
緊
密
な
絡
み
合
い
も
印
象
的
で
し
た
。約
2
年
半
ぶ
り
の
開
催
と
な
っ
た
「
吾
子
屋
ト
ー
ク
」
は
、
第
6
8
回
以
下
、
ゲ
ス
ト
と
と
も
に
母
娘
の
関
係
性
「
仏
教
と
の
新
し
く

今
回
の
特
徴
と
し
て
、
当
会
に
お
け
る
他
事
業
と
の
緊
密
な
絡
み
合
い
も
印
象
的
で
し
た
。約
2
年
半
ぶ
り
の
開
催
と
な
っ
た
「
吾
子
屋
ト
ー
ク
」
は
、
第
6
8
回
以
下
、
ゲ
ス
ト
と
と
も
に
母
娘
の
関
係
性
「
仏
教
と
の
新
し
く

今
回
の
特
徴
と
し
て
、
当
会
に
お
け
る
他
事
業
と
の
緊
密
な
絡
み
合
い
も
印
象
的
で
し
た
。約
2
年
半
ぶ
り
の
開
催
と
な
っ
た
「
吾
子
屋
ト
ー
ク
」
は
、
第
6
8
回
以
下
、
ゲ
ス
ト
と
と
も
に
母
娘
の
関
係
性
「
仏
教
と
の
新
し
く

今
回
の
特
徴
と
し
て
、
当
会
に
お
け
る
他
事
業
と
の
緊
密
な
絡
み
合
い
も
印
象
的
で
し
た
。約
2
年
半
ぶ
り
の
開
催
と
な
っ
た
「
吾
子
屋
ト
ー
ク
」
は
、
第
6
8
回
以
下
、
ゲ
ス
ト
と
と
も
に
母
娘
の
関
係
性
「
仏
教
と
の
新
し
く

今
回
の
特
徴
と
し
て
、
当
会
に
お
け
る
他
事
業
と
の
緊
密
な
絡
み
合
い
も
印
象
的
で
し
た
。約
2
年
半
ぶ
り
の
開
催
と
な
っ
た
「
吾
子
屋
ト
ー
ク
」
は
、
第
6
8
回
以
下
、
ゲ
ス
ト
と
と
も
に
母
娘
の
関
係
性
「
仏
教
と
の
新
し
く

今
回
の
特
徴
と
し
て
、
当
会
に
お
け
る
他
事
業
と
の
緊
密
な
絡
み
合
い
も
印
象
的
で
し
た
。約
2
年
半
ぶ
り
の
開
催
と
な
っ
た
「
吾
子
屋
ト
ー
ク
」
は
、
第
6
8
回
以
下
、
ゲ
ス
ト
と
と
も
に
母
娘
の
関
係
性
「
仏
教
と
の
新
し
く

今
回
の
特
徴
と
し
て
、
当
会
に
お
け
る
他
事
業
と
の
緊
密
な
絡
み
合
い
も
印
象
的
で
し
た
。約
2
年
半
ぶ
り
の
開
催
と
な
っ
た
「
吾
子
屋
ト
ー
ク
」
は
、
第
6
8
回
以
下
、
ゲ
ス
ト
と
と
も
に
母
娘
の
関
係
性
「
仏
教
と
の
新
し
く

今
回
の
特
徴
と
し
て
、
当
会
に
お
け
る
他
事
業
と
の
緊
密
な
絡
み
合
い
も
印
象
的
で
し
た
。約
2
年
半
ぶ
り
の
開
催
と
な
っ
た
「
吾
子
屋
ト
ー
ク
」
は
、
第
6
8
回
以
下
、
ゲ
ス
ト
と
と
も
に
母
娘
の
関
係
性
「
仏
教
と
の
新
し
く

今
回
の
特
徴
と
し
て
、
当
会
に
お
け
る
他
事
業
と
の
緊
密
な
絡
み
合
い
も
印
象
的
で
し
た
。約
2
年
半
ぶ
り
の
開
催
と
な
っ
た
「
吾
子
屋
ト
ー
ク
」
は
、
第
6
8
回
以
下
、
ゲ
ス
ト
と
と
も
に
母
娘
の
関
係
性
「
仏
教
と
の
新
し
く

今
回
の
特
徴
と
し
て
、
当
会
に
お
け
る
他
事
業
と
の
緊
密
な
絡
み
合
い
も
印
象
的
で
し
た
。約
2
年
半
ぶ
り
の
開
催
と
な
っ
た
「
吾
子
屋
ト
ー
ク
」
は
、
第
6
8
回
以
下
、
ゲ
ス
ト
と
と
も
に
母
娘
の
関
係
性
「
仏
教
と
の
新
し
く

今
回
の
特
徴
と
し
て
、
当
会
に
お
け
る
他
事
業
と
の
緊
密
な
絡
み
合
い
も
印
象
的
で
し
た
。約
2
年
半
ぶ
り
の
開
催
と
な
っ
た
「
吾
子
屋
ト
ー
ク
」
は
、
第
6
8
回
以
下
、
ゲ
ス
ト
と
と
も
に
母
娘
の
関
係
性
「
仏
教
と
の
新
し
く

今
回
の
特
徴
と
し
て
、
当
会
に
お
け
る
他
事
業
と
の
緊
密
な
絡
み
合
い
も
印
象
的
で
し
た
。約
2
年
半
ぶ
り
の
開
催
と
な
っ
た
「
吾
子
屋
ト
ー
ク
」
は
、
第
6
8
回
以
下
、
ゲ
ス
ト
と
と
も
に
母
娘
の

同時多発的に行われた演劇
公演や、1月17日の千秋楽であ
く活き彫りになった震災とか
主題を通じて大人から子ども
もまでの参加者がまちのな
かから選択し、行動する姿
が見られました。

社会の常識にとられず
異日常の世界で主体的に生
きること。そのようにい
ち／＼演じるこの可能性
が、バラエティに富んだ活動
を通して、多角的に試みられ
るお祭りとなりました。

5年3月の「山口主幹を送る会」のときに、山
は、ぼくに「現代社会にコモンズは成立する
思ってます。山口さん、見守ってください(笑)。

撮影：今田修二

〈いのち〉を演じる舞台上で
それぞれの宝物を分かち合う

Interview

(文筆家・「Temple」主宰)

[illegible]

の活動から多くのことを学びました。お寺は、私たちが生きていく上で、の休憩場所だと思ふんです。"Temple"をお寺で開催するものも、社会の役割から解き放たれて、何者でもな、自分にくつろげる場だと感じるから。私たちが集い、息継ぎができるように、もっと多くのお寺に場をひらいていただけたらいいなと思います。

お坊さんだけでなく様々な分野の方にお話を伺って記事にしています。イベントの「Temple」はその記をページとした参加者同士の対話の場です。何技術も持ち合ひせない私ですが、縁縁にお任せした対話の場を設けることで、へちのちはたらくを参加者が直に感じていたとされるのではなにかと。文筆と対話を繰り返していくことが、私にとこの仏道修行でありライフワークなのです。

——— ありがとうございます。最後に、應典先生はじまお苦しみでの想や希望があればお聞かせください。

小出 実は、秋田光佐の教の習得をしない寺が荒れた僧の心とつづです。應典院

お坊さんだけでなく様々な分野の方にお話を伺って記事にしています。イベントの「Temple」はその記をページとした参加者同士の対話の場です。何技術も持ち合ひせない私ですが、縁縁にお任せした対話の場を設けることで、へちのちはたらくを参加者が直に感じていたとされるのではなにかと。文筆と対話を繰り返していくことが、私にとこの仏道修行でありライフワークなのです。

——— ありがとうございます。最後に、應典先生はじまお苦しみでの想や希望があればお聞かせください。

小出 実は、秋田光佐の教の習得をしない寺が荒れた僧の心とつづです。應典院